

# 富士見市新庁舎建設基本計画（案）に関する市民説明会

## 質疑要旨

<b>日 時</b>	令和6年1月30日（火）	開会 午後7時00分 閉会 午後8時20分
<b>場 所</b>	水谷公民館 多目的ホール	
<b>参加人数</b>	36人	
<b>出席者</b>	星野市長 浅井副市長 古屋総務部長 平澤新庁舎整備室長	
<b>事務局</b>	新庁舎整備室	
<b>概 要</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 市長あいさつ</li> <li>3 説 明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新庁舎整備事業について（市長）</li> <li>・富士見市新庁舎建設基本計画（案）について（新庁舎整備室長）</li> </ul> </li> <li>4 質疑応答</li> <li>5 閉 会</li> </ol>	
<b>質疑応答・意見</b>		
参加者	<p>工事費については、公共工事なのでスライド条項が適用されると推察する。労務費は今後も上昇すると予想されるため、さらなる事業費の工夫が必要ではないか。今後も工事費が増える可能性があるため、減額できる方法を探してほしい。</p>	
総務部長	<p>ご指摘のとおり、近年建設物価が非常に上がっている。現時点での概算事業費を説明したが、今後の社会状況により増額の可能性もある。設計段階でも事業費を踏まえながら検討を行う。</p>	

参加者	<p>理想を追いすぎると予算がオーバーすることが懸念される。事業費が現在の想定である 126 億円を一定程度オーバーした段階で事業を中止する等の想定はあるか。</p> <p>パブリックコメントをしようと思い、用紙をもらいに行ったが、用紙が出先機関に揃っていなかった。行政の都合ではなく、市民第一で対応していただきたい。広報誌にもいつから配布するのかが記載されていなかった。</p>
総務部長	<p>これまでも事業費の抑制に向けて取り組んできた。現時点では、事業費への影響が大きい面積も確定したものではないため、面積・事業費が増えないように留意しながら設計を進めたい。</p> <p>パブリックコメントの用紙の準備については、至らないところがあり、申し訳なかった。わかりやすいかたちの周知を検討したい。</p>
参加者	<p>免震構造にするとのことだが、どの程度まで大丈夫なものか。</p>
総務部長	<p>震度 6 など、想定される地震動に耐えられるものとする。他市の事例やコストも考えながら検討したい。</p>
参加者	<p>事業計画について、建設費の高騰が想定される。予算上限額を設定するなどし、基本設計が終わった時点で積算した工事費によっては基本設計の見直しを行うといった進め方を事業スケジュールに示す必要があると考える。</p>
総務部長	<p>スケジュールについては、おおまかなものを示している。工事費については今後も基本設計が終わった段階で概算工事費の算出を行い、確認することになる。概算事業費について庁内で検討した上で、事業を次の段階に進める。</p>
参加者	<p>災害もあり、労務費だけでなく材料費も高騰している。10%以上は増額しないように決めるなど、進め方を明確にしてほしい。</p>
総務部長	<p>ご意見を踏まえながら事業を進める。</p>
参加者	<p>志木市の新庁舎がグッドデザイン賞を受賞している。まちづくりや市民に親しまれている点も評価されているものと思われる。志木市に負けないように、よりよい設計を期待する。</p>
総務部長	<p>事業費にも配慮しながら設計する必要があるが、だれもが利用しやすい庁舎など、基本計画でも示している方針に基づき、設計においても様々な工夫を行う。</p>

参加者	資料に中高層階とあるが、何階建て程度の想定か。建物の場所は液状化の心配はないか。
総務部長	具体的な階数については設計段階で確定するが、現状では4～5階建てを想定している。建物配置は現本庁舎の裏側になる。液状化については、ハザードマップの中で下から2番目の「低い」という評価になっている。
参加者	災害では新河岸川、荒川の氾濫が考えられるとのことだが、その際庁舎に入る方法、出る方法は検討したか。浸水した場合にどうするか。
総務部長	建設地は浸水想定区域であるため、重要な電気設備や発電機は浸水深よりも高い位置に設置する。浸水時の対応については他市にも話を聞きながら検討している。現状では地域防災計画において災害対策本部の代替施設を設定しており、第1順位：鶴瀬公民館、第2順位：水谷公民館となっている。水害時に市役所が使えなくなった際はそちらに機能を移すことになっている。このように、災害対応についてはソフト面の対応についても検討する必要があると考えている。
参加者	荒川第二・第三調節池ができれば、浸水の想定は大きく見直されるのではないかと。それを前提にすると、浸水についてはあまり心配しなくてもいいのではないかと。
総務部長	治水対策が進められていることは認識している。 ハザードマップは現状に基づき作成されているが、今後調節池が完成した場合は浸水想定についても見直され、ハザードマップも改正される可能性はある。今後も状況を注視したい。
参加者	各エリアにおける必要面積の中で執務室が一番大きい。DXの進展や働き方改革を前提として必要面積を決めているとのことだが、面積と関連して説明をお願いしたい。この必要面積は何年先を想定したものか。これは何年先の職員数を想定しているものなのか？
総務部長	DXの取組としては、デジタル技術を用いて市民サービスを向上させようと考えている。また、面積に影響する職員数については、将来の人口推移を想定した令和42年時点の人口を考慮した人数を設定しており、職員の座席も固定ではなく、共用化する運用とすることで、一定程度執務席数を減らして面積を算出している。
参加者	現庁舎の職員数と新庁舎に収容する職員数を教えてほしい。

総務部長	<p>集約対象施設も含めた現庁舎の職員数は、席を持つ委託事業者等を含めて 620 人程度である。新庁舎では、そこからテレワークの推進や執務席の共用化を考慮して、一定程度執務席数を減らして面積を算出している。</p>
参加者	<p>席数を減らしているとのことだが、執務面積が増えている。オープンフロアにすることで執務面積は減らせると考えられ、会議のやり方を変えることで会議室も減らせると思う。そのような取組は考えているのか。</p>
総務部長	<p>新庁舎に配置する職員数に対して、執務席の数は一定程度削減して設定しているが、現在の執務室は非常に狭いところがあり、結果的に増えることになっている。</p>